

る機会がある。反面、基礎的な知識が無いと話を理解する事も難しい分野が多く、改めて基礎医学の大切さを痛感している。講義以外でも、6年次の卒業試験や、4年次のCBTの話を聞くと、戦慄する事も多い。

また、各部活動は活発に活動しており、多くの部活生は年次が上がるほど確実にアルコールに強くなっていくようである。

バイトをしている学生も多く、塾の講師をすれば、普通の大学生の数割増しのバイト代がもらえる事が多く、他学部生よりお金持ちである可能性は否定できない。

この様にいろいろな面で、医学生は求められる事は多く、責任も多いと思うが、それを満たしながら、とても充実した生活を得ている人が多い様に見受けられる。

試験勉強や部活動、サークル、バイトなどのハードスケジュールをこなす人が多いと思われるが、皆日々を楽しんでいるように感じる。

日々の幸せを糧として、進んでいく事をやめてはならないと決意を新たにしている今日この頃である。

## 2年次の近況報告

新崎 綾 (2年次)

こんにちは。2年次長の新崎です。

2年生の近況を報告させていただきます。

わたしの記憶が正しければ、前回のこのコラムで「2年生になり、専門科目の洗礼をうけはじめた」なんてことを書いたような。

でも甘かったですね。今となっては、あのころのわたしたちは洗礼はおろか、実はまだヨルダン川のほとりに居ただけだったような気がします。

夏休みを思い思いに過ごした後、2年次に襲いかかったのは2年次の関門の一つ、10月のテストラッシュでした。記述試験の最難関であろう生理Ⅱ、おびただしい数のカタカナが襲い掛かる生化学、人体の迷路をマクロから解き明かす解剖学、人体の迷路をミクロから覗き見る組織学、そして後期から新たに始まった生理Ⅰもすぐにテストラッシュのお仲間に加わり、遺伝学、発生学の授業とともに走り出しました。

また、人体解剖学の実習も後期から始まりました。人体



の精密な構造、仕組みに直接触れ、教科書でみた図とは違う圧倒的迫力を伴って生命について考えさせられる貴重な実習だと感じています。献体された方々の、「医学のために。医学生のために」という高い志に触れ、私たちは「大学生」から「医学生」へと成長する、ある種のイニシエーションなのかもしれません。

夏の終わりを迎え、ふと外を見れば早くも空は夜を連れてきていました。勉強に追われている間に、もうそこまで冬が来ていました。こんなにも季節の変わり目に意識が向いていなかったのか…。沖縄に秋なんてなかったのだろうか…。

なんて感傷に浸っている暇もなく、またテストの波(追試)がやってきます。荒波を超えてみんなで進級したいです。

忙殺されていても、学友とお昼は楽しいものです。そんな午後のひとときを添えて2年次の近況報告とさせていただきます。

## 自 覚

安部直希 (1年次)

秋色いよいよ深まり、夜長の頃となりました。琉球大学医学部医学科同窓会員の皆様、はじめまして。一年次の副年次長の安部直希と申します。大学生活が始まってはや七ヶ月、沖縄では紅葉は見られませんが、一年生は色づいてきております。私は、異性と話すのが少々苦手ですのでそっち方面でみなさまに報告させていただくことは何もありません(笑)。さて、今年の一年生のカリキュラムは従来のそれとは大幅に変わり、今現在、解剖学、組織学、生理学を学んでおり、生理学にいたっては、一、二年次共通の科目として一つの教室で約250人で講義に参加しています。先日、生理学、組織学の試験があり、やっと医学生としての自覚が芽生え、また、お医者さんになるのは本当に大変なことなんだと改めて感じました。今では、この道を歩ませてくれた両親にすごく感謝しています。これからは自覚をもち、自らすすんで多くのことを学び立派な医師になるよう勉学に励みたいと思います。最後まで拙い文章を読んでもくださりありがとうございました。みなさん、お仕事大変だと思いますが、身体に気を付けて、お風邪など召されませぬようご自愛下さい。

